

93 アクチノバチルス・スイス感染症（旧 豚アクチノバチルス症）

担当	検査チャート
家畜保健衛生所	<pre> graph TD A["(1) 疫学調査"] --- B["(2) 臨床検査"] A --- B B -- "(死亡豚、鑑定殺豚)" --> C["(3) 剖検 (主要臓器病変部)"] C --> D["(4) 細菌培養試験"] C --> E["(6) 病理組織検査"] D -- "<分離培養>" --> F["(5) 細菌性状分析"] F --> G["(+)"] F --> H["(-)"] E --> I["(7) 免疫組織化学検査"] I --> J["(+)"] I --> K["(-)"] style I stroke-dasharray: 5 5 </pre>
病性鑑定施設	<p>(4) 細菌培養試験 <分離培養> (5) 細菌性状分析</p> <p>(+) (-)</p> <p>(+) (-)</p>
判定・結果	<p>(+) (-) (+) (-)</p>
最終判定	<p>疫学調査、臨床検査の結果を基に、剖検、細菌培養試験、病理組織検査等の結果を併せて総合的に判断する。</p>
その他	

→類似疾病検査

- ① 82 豚丹毒 ② 96 豚胸膜肺炎 ③ 102 ヘモフィルス・パラスuis感染症(グレーサー病)
 ④ 101 豚レンサ球菌症 ⑤ 99 豚パスツレラ症(パスツレラ肺炎) ⑥ アクチノバシラス・エクーリ感染症

○ 病原体: *Actinobacillus suis*

(1) 疫学調査

- ① 従来は新生豚～4週齢の豚に好発する。
 ② 海外(特に衛生状態の良い農場)では、肥育豚および成豚でも発生が認められる。

(2) 臨床検査

- ① 豚(特に幼豚)の突然死
 ② 発熱、食欲不振、咳、関節腫脹
 ③ 成豚の皮膚紅斑、繁殖豚の流産

(3) 剖 検

- ① 敗血症、多臓器の点状出血、胸腹腔の漿液～漿液線維素性滲出液貯留
 ② 胸膜炎、心外膜炎、肺炎、関節炎
 ③ 疣状心内膜炎、肺、肝臓、腎臓の粟粒膿瘍

(4) 細菌培養試験(分離培養)

- ① 主要臓器を採材し、血液寒天培地を用いて37℃で20～24時間培養する。
 ② 血液寒天培地上で完全(β)溶血性、直径1～2mmの灰白色円形集落を形成。*Actinobacillus pleuropneumoniae* 生物型1の場合は、羊血液寒天培地での発育が非常に悪いため、鑑別の目安となる。集落はやや粘稠性を示す。

(5) 細菌性状分析

(分離菌の性状)

菌 種	溶血性	ウレアーゼ	マンニト	アラビノース	キシロース	エスクリン	NAD要求性
<i>A. suis</i>	+	+	-	+	+	+	-
<i>A. equuli</i> subsp. <i>equuli</i>	-	+	+	-	+	-	-
<i>A. pleuropneumoniae</i>	+	+	+	-	+	-	d

d: 株によって異なり、+は生物型1、-は生物型2

(6) 病理組織検査

肝臓、腎臓、肺、皮膚の菌塞栓を含む壊死巣が観察される。

(7) 免疫組織化学検査

病変部に細菌抗原を検出する。

(参考文献)

- Chrisitensen, H. & Bisgaard, M.: Vet. Microbiol. 99, 13-30 (2004).
 • Gottschalk, M. In: Diseases of Swine (Zimmerman, J.J., et al. eds.), 10th ed. 665-666, Wiley-Blackwell, Iowa (2012).